



2025年12月23日

各 位

会社名 三菱マテリアル株式会社
代表者名 執行役社長 田中徹也
(コード 5711 東証プライム市場)
問合せ先 I R 室長 織田慎介
(電話番号 03-5252-5290)

セメント関連事業における国内生産体制の再構築について

当社は、当社とUBE株式会社が折半出資する持分法適用関連会社UBE三菱セメント株式会社(以下、UBE三菱セメント)が、本日開催の取締役会において、資産効率の適正化とセメント事業の競争力強化及びカーボンニュートラル実現へ向けた熱エネルギー代替率の向上を目的として、2027年3月末を目途に九州工場苅田第二地区のキルンを停止し、同地区を各種廃棄物処理に特化したリサイクル推進拠点へ再構築することを決定しましたので、お知らせします。詳細につきましてはUBE三菱セメントが本日公表した「セメント生産体制の再構築について～九州工場苅田第二地区的リサイクル推進拠点化～」をご参照ください。

本件に伴う当社の2026年3月期連結業績への影響は軽微と見込んでいます。また今後公表すべき事実が発生した場合は速やかにお知らせします。

以 上

参考：2026年3月期連結業績予想（2025年11月11日公表）及び前期実績 (百万円)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属性する当期純利益
当期連結業績予想 (2026年3月期)	1,590,000	15,000	43,000	20,000
前期連結実績 (2025年3月期)	1,962,076	37,118	60,235	34,076

2025年12月23日

報道関係各位

UBE三菱セメント株式会社

セメント生産体制の再構築について ～九州工場苅田第二地区のリサイクル推進拠点化～

UBE三菱セメント株式会社（本社：東京都千代田区、社長：平野和人、以下「当社」）は、本日開催の取締役会において、2027年3月末を目途に九州工場苅田第二地区のセメント生産を停止し、同地区を各種廃棄物処理に特化したリサイクル推進拠点とすることについて決議いたしましたので、下記のとおりお知らせします。

記

セメント国内需要の減少及び輸出市場の採算悪化など、セメント業界を取り巻く事業環境が一段と厳しさを増し、先行きについても予断を許さない中、当社は、持続的成長と中長期的な企業価値向上のため、収益力の向上と資産効率の適正化に注力しています。

一方、当社が2050年の実現を目指すカーボンニュートラルについては、熱エネルギー代替率の向上が最重要施策の一つとなる中、特に、国内屈指の生産能力を有する九州工場の熱エネルギー系廃棄物処理量を拡大し、当社全体の熱エネルギー代替率50%以上を達成することが必須の課題と考えております。

このような状況のもと、当社は、今後の最適操業体制確立と当社セメント事業の競争力強化について検討の結果、2027年3月末を目途として、九州工場苅田第二地区のセメント生産を停止し同苅田第一地区に集約することで、九州工場全体の生産設備の効率化を図り、また、当社保有技術を最大限活用し、更なる廃棄物処理代替率向上を実現するため、同苅田第二地区について、既設の廃プラスチックの破碎・梱包や塩素・異物除去のための設備を活用し、リサイクル推進拠点として整備を進めていくこといたします。

当社は、これらの施策を着実に遂行することにより、企業価値のさらなる向上とサステナブルな社会の実現を目指してまいります。



〒100-8521 東京都千代田区内幸町二丁目1番1号 飯野ビルディング 12F

問い合わせ先 03-6275-0333 (総務部 広報室)

(ご参考) 九州工場苅田第二地区の概要

所在地	福岡県京都郡苅田町長浜町 7
操業開始	1964（昭和 39）年
生産能力	1,500 千 t/年
生産品目	セメント製品（普通セメント、高炉セメント）
取扱廃棄物品目	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等（以上 3 品目については、自動車等破碎物を含む。）、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、鉱さい、がれき類、ばいじん、政令第 2 条第 13 号廃棄物 以上 17 品目

以 上